

令和元年度 第3回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日時 令和元年12月3日(火) 13:15～15:10
 2 場所 コミュニティセンター 2階 集団指導室
 3 出席者

委員構成	氏名	役職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	鈴木 ひとみ	市議会議員
	室 厚美	市議会議員
	龍崎 滋	市議会議員
産業関係者	石渡 和男	館山商工会議所 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦
	竹内 信一	公益社団法人 安房医師会 推薦
	館石 正文	一般社団法人 館山市観光協会 推薦
	平野 直	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 真司	一般社団法人 館山青年会議所 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
行政関係者	池田 一浩	千葉県安房地域振興事務所 推薦
教育関係者	森 真	国立館山海上技術学校 推薦
	守安 委久予	館山市教育委員会 推薦
金融関係者	景山 富代	館山市金融団(二十日会) 推薦
労働関係者	大谷部 博明	館山公共職業安定所 推薦
	羽山 敏雄	千葉県社会保険労務士会木更津支部 推薦
報道関係者	片方 義明	館山記者クラブ 推薦
知識経験者	秋山 一夫	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	石渡 秀嗣	館山市子ども・子育て会議 推薦
	廣中 元衛	館山市スポーツ協会 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) 高橋實委員

4 議題

- (1) 今後の策定スケジュールについて
- (2) 館山市人口ビジョン改訂版（原案）について
- (3) 第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）について
- (4) 『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（館山市人口ビジョン改訂版を含む）』原案に係るパブリックコメントの実施について
- (5) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』策定に係る市民意識調査の実施について
- (6) その他

5 会議の経過

1. 開会
2. 市長挨拶

金丸市長：皆さまこんにちは。ご多用の中、本審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から市政発展のためにご尽力を賜り、重ねてお礼申し上げます。台風15号の被害から、3ヵ月が経とうとしておりますが、まだまだ市全体の市民生活が日常を取り戻すまでには至っておらず、かなりの時間を要するものと認識しています。なお、現時点での罹災証明の発行状況としましては、住家について約6,000件発行しており、11月8日に開設した総合支援窓口には、うち約2,000件の方が相談に来ている状況です。今後は義援金の支給もスタートしますが、引き続き、災害復旧・復興を最優先に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本日の審議会では、主に「第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」原案及び「館山市人口ビジョン改訂版」原案についてご審議いただきます。審議会後、今月中旬にパブリックコメントを実施し、ここで寄せられたご意見等を参考にしながら、来年3月末に策定できるよう進めてまいります。本日も、各界各層の代表であります委員の皆さまの忌憚ないご意見を頂戴できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。加えて、本審議会の開催に際し、事前送付資料に基づいて事務局案に対するご意見を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。結びに、市政へのより一層のご協力をお願い申し上げるとともに、皆さまに心から感謝を申し上げ、挨拶いたします。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 欠席委員の報告

4. 議事

- (1) 今後の策定スケジュールについて
※事務局より説明
- (2) 館山市人口ビジョン改訂版（原案）について
※事務局より説明

竹内委員：今回の9月と10月の台風で、市の状況が変わっていると思います。人口が流出したり、家が壊れたりしています。人口推計において、これらの影響は考慮しているのでしょうか。

事務局：9月と11月の人口総数を比べると、住民基本台帳上では、9月1日で46,329人、11月1日で46,255人です。平時との人口減少と比べて大きく減っているわけではありません。今回お示ししたものを事務局案としたいと思います。

竹内委員：罹災証明を出したりして、住めない人も出てきています。現在の状況ではなく、もう少し長いスパンで考えたシミュレーションはできないのでしょうか。意見として申し上げます。

事務局：長いスパンで考えたシミュレーションは、難しいと思います。

石渡会長：事務局案に対して、審議会としての結論をまとめます。賛成、反対、棄権につき挙手をお願いします。
結果は、賛成が22名、反対が1名、棄権が1名でした。よって、事務局案に賛成とさせていただきますと思います。

(3) 第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）について

※事務局より説明。

石渡会長：本日のメインである総合戦略の中身に入る前に、「SDGsに関する市の取組の考え方」について、事務局から説明がありました。まず、「SDGsに関する市の取組の考え方」の部分に限定して、何かご意見があれば頂戴したいと思います。

鈴木ひとみ委員：【資料3-3】では、SDGsの目標6「水・衛生」、7「エネルギー」に関して何も「●」がついていません。今回の災害で一番感じたのは、ソーラー発電パネルの隣に住んでいる家がなぜ停電しているのか、ということでした。水に関しても、川が氾濫したり雨が漏ってきたりずっと水に悩まされていたので、この2つについてもっと真剣に考えるべきだと思います。館山は空気がきれい、風が常に吹いていて、海があり、太陽の光が沢山降り注いでいるので、クリーンエネルギーを使って環境に優しい暮らしができるのではないかと思います。海岸の清掃をすると、プラスチックごみが多く落ちているので、それに関してももう少し考えてみていいのではないかと思います。もし自然や環境に優しいまちとして売り出すことができれば、それに惹かれて移住する若者も増えると思います。

室委員：SDGsの「誰一人取り残さない」という理念からすると、飢餓や貧困への関連性が一つもないのはどうなのでしょう。子どもの教育によって、飢餓や貧困、平和の解決につながることもあると思います。先ほどの「水・衛生」、「エネルギー」も含めて、折角入るのであれば、「●」がゼロの目標がないほうがよいと思います。

竹内委員：市でできることと、最終的には国が関与しなくてはいけないことがあります。例えば電気に対して市でできることは限界があり、今回の台風で医療関係者は苦勞していま

す。個人的意見ですが、「●」はすべての目標につける必要はなくて、重点にする部分と、あとは努力目標にする部分を分けて考えるべきだと思います。

事務局：今まで頂戴したご意見に関して、現時点で「●」がついていない目標がありますが、施策の内容によっては関連性があるかどうかもう一度整理し直したいと考えています。今回は総合戦略ですので、すべての分野を網羅するものではありませんが、SDGsの理念を踏まえてというところもございますので、再度整理させていただきたいと思います。

石渡会長：よろしくお願ひします。全部網羅することは難しいですが、できることから前向きに取り組むとよいと思います。

田中委員：私もすべての目標に「●」がついている必要はないと思います。現在、「SDGs ウォッシュ」と呼ばれる、小さな取組を無理やりSDGsに結びつけることが問題視されています。また、〇〇フェスタなどの都内の催し物に行くと、SDGsに取り組んでいる企業が増えています。今後、世の中の的には、SDGsに取り組んでいない企業とは取引をしないという流れになっていきます。市としての取組には限界がありますが、注力する部分を決めることが重要だと思います。今後一番重要なのは、子どもに対する教育だと思います。SDGsは崇高ということではなく、人として当たり前のことだと教えていくことができる施策を進めていくことが必要だと思います。

石渡会長：それでは、委員からの意見を踏まえ、事務局案に沿ってSDGsを推進していくことでよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし

石渡会長：続きまして、本題となる総合戦略の原案について、事務局より説明をお願いします。

※事務局より説明

田中委員：サテライトオフィスの誘致は、もはや無理だと思っています。台風の被害によってインフラの脆弱さが露呈しているので、IT企業はまず来ないと思います。私はITの仕事をしているのでわかるのですが、インフラへの被害は致命的であり、台風の影響が反映できていないと思います。「災害に強い」という文言が出てきていますが、具体的な施策が全くないので、どう実現していくか不明で根拠がありません。ITに限らず、企業にとって電力は致命的なものなので、誘致をするのであればインフラ整備、例えば電柱の地中化などの具体的な施策が必要だと思います。

石渡会長：貴重なご意見ですが、実現するには時間とお金がかかります。「災害に強い」について何か結論のようなことを出すのは難しいと思います。

金丸市長：今回の台風は風速 50 メートル以上あり、日本中どこであっても館山市と同じような被害が出たと考えられます。どのような種類の災害に対応するか想定しながら、根本的に対応を変える必要があります。電線地中化は検討していますが、大変な費用と時間がかかります。全体の比率ではまだ少ないですが、館山市は他の地域に比べると電線地中化は進んでいます。総合的な観点から災害に強いまちづくりをしていきたいと考えています。今までは、津波に強いことを想定していましたが、風への対策の観点は薄かったと思います。災害に強いことは計画に記載しますが、具体的な対策はこれから検討してまいります。

石井敏宏委員： サテライトオフィス誘致は厳しいというご意見はそのとおりだと思います。台風 15 号・19 号両方含めて、東京のほうが被害が少なく、IT 企業にとっては東京に比較優位があることが明白になりました。国策として、例えば、送電線は関東では風速 40 メートルまでしか耐えられませんが、台風の多い関西では風速 60 メートルまで耐えられるようになっていきます。もともと関東の方が軽視されているため、この計画に盛り込むのは難しいと思いますが、国や県に働きかけてほしいと思います。また、災害に弱かったところは、やはり老朽化しているところです。新しい瓦は防災瓦が変わっており全部繋げているため、新築の瓦は、理論上は飛ばされることはないそうです。老朽化した建物が壊れる可能性が高くなります。市内三大老朽化施設のうち、ごみ焼却場は大丈夫でしたが、第三中学校や給食センターが被害を受けたのは必然の結果だと思います。市は老朽化対策を行っていますが、財政的な面もありなかなか進んでいないので老朽化施設の建て替え・改修に力を入れてほしいと思います。この計画に入れ込むのは難しいと思いますが、意見とさせていただきます。

竹内委員： 館山市は昔から台風中継でテレビに出っていますが、直撃したことはあまりありませんでした。一方、二子玉川ではマンションで亡くなった方が出るなど大きな被害が出て、恐らく地価が下がると思います。実現するかどうかはお金の問題もありますが、人間はイメージで動くため、災害に弱いというイメージを払拭するような具体的な対策をとる必要があると思います。

事務局： 災害については、第 1 期の総合戦略にも位置付けていましたが、第 2 期ではより重点的に取り組む必要がございますので、具体的な施策まで踏み込んで取り入れられない状況ですが、積極的に進めていく必要があると考えています。

金丸市長： 以前から災害の視点は入っていましたが、津波被害を想定していました。今最も心配されているのは、南海トラフの地震・津波よりも、首都直下型地震があったときに救えるのは館山市だと私自身思っています。海外から物資を運ぶために近いからです。話が大きくなりますが、そのような想いも持って、災害の視点を強調して入れさせていただきました。

石渡会長：房州や館山は、100年くらい大きな災害に遭っていない地域です。とにかく油断があったと思いますので、そのような状況を踏まえて見直すのは重要だと思います。

事務局：若干の補足をさせていただきますが、【資料3-4】の「未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ」の中で、「安心・安全なまちづくりの推進」はもともと第1期から取組があります。地域防災力の強化や災害対応力の強化、道路等社会基盤に係る長寿命化対策の実施などが含まれます。「食」の豊かさで人をひきつける」の中で、「農業生産基盤の維持・保全」を位置付けていますが、その中で今回、「台風被害の復興促進」を追加しました。また、「若者」の夢と希望をかなえる」の中で、「商業・工業の活性化によるまちの元気創造」でも「台風被害からの復興促進」を新たに位置付けました。

溝口委員：今回の台風が大きくなった原因に地球温暖化が挙げられています。日本の片隅の小さな市ですが、長い目で見て、これからの子どもたちのために何ができるかを考え、ぜひ今後は地球環境対策の施策に取り組んでほしいと思います。

吉田南子委員：SDGsと戦略の施策を関連付けて取り組んでいくなれば、市民一人ひとりが自分たちのこととして捉えられるようなものがあると良いと思います。市が取り組むことと、市民に意識して取り組んでほしいことがわかれば、市民目線の総合戦略になるといいのかなと思います。

石渡会長：本審議会で総合戦略を知ったという方もいらっしゃるのではないかと思います。ご意見として伺わせていただきます。

羽山委員：【資料3-4】を拝見しておりまして、総合戦略としてはこれで良いと思いますが、個人的な思いがありまして一つご検討いただければと思います。この地域を考えたときに、若い人にまず館山を誇りに思っていたいただきたいと思います。何を誇りに思っていたかということ、私は海も大好きですが、花のまちづくりに期待しています。総合戦略では「館山の魅力向上に向けた環境整備」の中に「花のまちづくりの推進」が位置付けられています。具体的な施策はこれからの展開だと思いますが、『生きる力』と『郷土愛』の育成」の施策の中に、入れていただきたい項目があります。館山・南房総地域が、実は花卉栽培発祥の地だということ。明治から昭和初期までは、間違いなく南房総地域は、首都圏の「花のくに」であったという歴史を聞いております。明治時代からイギリスに輸出されるテッポウユリの生産もされていまして、富浦・館山・和田などの花卉栽培は順次広がっていき首都圏に出荷される一大生産地でした。このような歴史について掘り下げて研究していただき、もし子どもたちに伝えられる内容であれば、子どもたちに伝えていただくことを検討していただきたいと思います。個人的には、南房総地域は「花のくに」だと思っています。例えば、館山の子どもたちが都会に出て行って、館山はどのようなところかを聞かれたときに、「花のまち」と答えてくれたら個人的にはとても有り難く思います。

石渡会長：事務局には検討していただきたいと思います。

⇒検討の結果、「『生きる力』と『郷土愛』の育成」の具体的な施策に、「『花のまちたてやま』の特性を活かした子どもたちへの花育の推進」を追加しました。

龍崎委員：先ほどから【資料3-4】を見ておりますが、第1期に比べてボリュームがあり、施策が増えました。短期的には災害の影響があり、長期的には人口が減少し、財政が厳しくなります。地域的なハンディキャップをどのように克服していくかが重要ですが、ビジネスチャンスをどのように作るかに関して創業支援に関する施策も多くあります。海の魅力、食の豊かさ、若者の夢に関しては、産業の活性化が根底に流れていると思います。この辺りをどう高めていくかが重要だと思います。食の豊かさを例に考えると、天から与えられた豊かな資源を活かして地場産業や観光を盛り上げていくという流れがあります。民間事業者だけでは限界があるので、官民一体となった取組や、市民や事業者のニーズをキャッチすることが重要です。支援制度や施策が実現するために具体的に取り組んでいただきたいと思います。私は議員としてこの審議会に参加させていただいておりますが、総合戦略の概要を踏まえた上で、日々の活動の中で皆さまの意見を伺いながら検討していきたいと考えております。

石渡会長：ご意見として伺わせていただきます。

大谷部委員：私も意見としてですが、【資料3-4】の「未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ」の中に、「医療・介護環境の充実による健康長寿の促進」があります。医療や介護は人手不足ですが、安房地域ではこれから伸びていく、伸びていかなければならない産業であるため、どの時点から医療や介護の教育を始めるのかを計画の中に記載してほしいと思います。館山には医療・介護・福祉関連の学校はないため、地域で誇れる仕事があるということを教育の中で伝えてほしいと思います。

石渡会長：教育については同感です。

出山教育長：福祉については、館山市で福祉推進校として学校を指定して取り組んでいます。また、介護士を招いて介護体験を行っています。ふるさとの学習については、「里見学習」というものを館山市独自で開発し、小学校6年生で4時間、社会科の授業で館山の礎を築いた里見氏の学習を行っています。中学校2年生でも4時間、社会科の先生が協議して同様に里見学習を行っています。取り組んで6～7年になりますが、いずれ館山市を離れる子どもたちが、里見氏が館山を築いたことを理解してほしいと思っています。花づくりについては、地域花壇を作っている西岬がふさわしい地区です。また、館野ではイチゴ、九重では梨、神戸では魚の調理などを地域の方と一緒に作り、地域の独自性を活かして総合的学習に取り入れています。

石渡会長：里見氏は歴史では軽視されていると感じますが、どうでしょうか。

出山教育長：教育委員会では、6～7年前に里見氏に関する小学生を対象とした副読本を作成しました。ふりがながふられていて、小学生でも読めるようになっています。この副読本を使って、小学6年生と中学2年生が里見学習を行っています。

石渡秀嗣委員：地域コミュニティの話が少し出てきましたが、私は子どものための広場に携わっています。一旦市外に出て戻ってきた人のほとんどは、館山はこういう所があっていい所だと言います。先程、竹内委員がイメージが重要とおっしゃっていましたが、館山は暖かくて花もキレイで人も穏やかで優しく、住みやすいというイメージがあります。ではなぜ館山に移住しないのかについては、いろいろな問題があるため検討して対応していく必要があります。ただ、今持っている「館山力」というものは、市民よりも周りの人や市外へ出ていった人から見るほうが魅力的に映っているので、そのような人の声も反映できる施策が必要だと思います。子どもの広場は他の自治体からの見学が多く、必ず「このような広場を作って、子どもを大切にしているのは良いことだ」と言われます。今ある良さや、市内に住んでいては見えないことも総合戦略にも反映していくと良いと思います。

石渡会長：事務局はこれらの意見を反映していただければと思います。

ただ今、皆さまから頂戴した意見を踏まえ、第2期総合戦略の原案を完成させることにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員全員：異議なし

石渡会長：修正等の作業は、事務局のほうにお願いしたいと思います。それでは次の議事に進みます。

- (4) 『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（館山市人口ビジョン改訂版を含む）』原案に係るパブリックコメントの実施について
※事務局より説明。

(質問・意見なし)

- (5) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』策定に係る市民意識調査の実施について
※事務局より説明。

石渡会長：このアンケートは、回答するのに少し体力が要りますね。

石井敏宏委員：前回のアンケートでは回答に40分くらいかかると記載されていましたが、今回のアンケートには記載しないのでしょうか。

事務局：事前に何名かに回答していただいたところ、今回も回答に40分くらい要したので、ア

アンケートの表紙に記載してもよいと考えています。

竹内委員:年齢について、人生100年時代に70歳代以上を一括りにするのはどうかなと思います。

70歳と80歳以上では相当違うので、70歳代と80歳代以上などにするのはどうでしょうか。

事務局:事前にそのようなご意見もいただいております。前は70歳代以上としていましたが、今回は80歳代以上の選択肢を加えたいと思います。人数としては70歳代以上が多いですが、できるだけ若い人から多くの意見をいただきたいため、年齢のバランスをとる方法を考えたいと思います。

竹内委員:性別について、「その他」と「無回答」がありますが、性同一性障害の方のことを考慮しているのでしょうか。そうであれば良いと思います。

事務局:他のアンケートを参考に選択肢を設けました。

(6) その他

※特になし

5 その他

事務局:プラスチックごみが環境に与える影響が世界的に問題になっています。国内でも自治体や企業でプラスチックごみ減量に向けた取組が広がっています。環境への配慮から、次回の審議会からペットボトルでのお茶の提供はやめて、紙容器での提供とさせていただきたいと思います。ご協力お願いいたします。

次回の審議会は、令和2年3月25日(水)13:30から、本日より同じコミュニティセンター2階の集団指導室を予定しています。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

以上